

加藤会長「第3回
で方向性固まる」

日本RPF工業会総会

一般社団法人日本RPF

工業会(加藤信孝会長)の

第三回定時社員総会は、六

月十二日午後四時から、東

京都港区の明治記念館で開

催された。総会に先立ち午

後三時から午後四時まで講

演会が開催され、京都大学

環境科学センター助教の浅

み。だげど値段のことも相当

言われます。売価が高いです

から。結局、定価だと競争相

手より少し高いですからね。

——話題と素材の中身で勝

負ですね。

松田氏 商品見本とかをい

っぱい集めています。話題づ

りです。このようにインタ

ビューで話すことによっても

分かっていたら、広めてい

たきたい。

展示会を平和紙業さんが開

き、次に竹尾さんが開き、今

度はSPP(新生紙パルプ商

事)さんが開いていただけま

だ。ゼUPRして、「エアラフス

を知っていたらいい。

——三澤社長ではないです

が紙の良き、紙と印刷でだけ

れば表現できないものを再認

識してもらえないかないです。

カルステン・トーマスエレン

さんのポスターのように夢は

広がります。

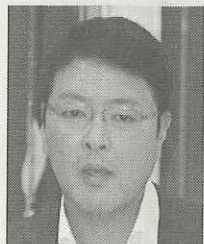
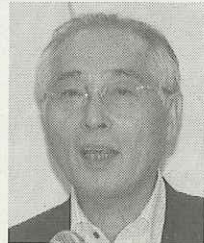
松田氏 言われる通りで

す。もつ一回、紙を見直そう

な、やっつけてくしかありま

せん。(おわり)

挨拶する加藤信孝会長、長田和志副会長、海田周治副会長(上から)



利美鈴氏が「世界の多様な

ごみ問題リサイクル事情」

の演題で講演した。

総会の開会挨拶で加藤会

長は、「第三回になり、活

動の方針、方向性がしっか

り固まってきた」と述べ、

①当業界の中における会

員、会員外に技術、品質、

安全のアプローチを伝える

こととして、会員には活動

に対する基本を、②会員外

には、事業拡大で技術レベ

ルの向上に力添えを、とし

て、③原料となる資源、廃

プラの利用範囲で、当業界

に多く回していただく活動

を挙げた。

さらに、活動を通して地

域社会で地位向上に深い認

識を示してもらい、「この

三年間で内と外に対する基

本が確立されてきた」と

自信ある認識を伝えた。

総務・広報委員会から長

田和志副会長が、技術・品

質委員会から海田周治副会

長が活動報告を行った。

その中で海田副会長は、

①環境省の中央環境審議会

へのオブザーバーとしての

参加、②容器リサイクル法

で正規の再商品化として

入札参加の兆しが見えて

きた、③安全技術、④製紙

連合会との意見交換を挙げ

た。

総会では提出議案を承

認し、閉会挨拶で長田会長

は「RPFはほとんどが発

電用、私たちのものづくり

は廃棄物処理法で規制され

守られている。お金を頂戴

して廃棄物を処理して、お

金を頂戴してものを売って

いる。仕入れがない商売で

す」と述べ、法律に違反し

て摘発された企業の事例を

挙げながら、「廃棄物処理

法という非常に厳しい法律

を守っていかなければいけ

ない」と、自覚を促した。

懇親会が午後五時から開

催され、加藤会長は「RP

Fの普及、技術向上を図り

たい」と来賓の宮沢洋一・

経済産業大臣、稲田朋美・

自民党政調会長、山本拓・

同工業会顧問で衆議院議員

資源エネルギー調査会会

長、監督官庁担当者を紹介

し、「責任の重さを痛感し

ています。恥じない運営を

していきます」と挨拶した。

宮沢大臣はエネルギー構

成のあるべき姿として「エ

ネルギーミックス」をまと

めたことを示しながら、再

生可能エネルギーで、「R

PFをもっと電気にも使っ

ていくことは本場に大事な

ことだ。日本の静脈産業の

中でも最も大事な産業であ

ると思う」と挨拶した。

山本顧問は「経産大臣が

お約束しました。環境省か

らケミカルリサイクル分野

でも予算を付ける検討をし

ている」と述べ、稲田政調

会長は「RPFは再生の新

しい取り組みです。応援し

たい」と伝えた。

乾杯は製紙連合会の羽山

正孝理事長が、「二〇一三

年に八四万トほど使わせて

いただいた。一〇年前と比

べたら五倍、今後も皆様方

の適当な価格で、安定して

供給いただければ、もっと

使える。一緒に進めていき

たい」と盃を挙げた。

中締めは海田副会長が、

「第三回で、こんなに盛況

でこんなに嬉しいことはな

い。三には意味がある」と

三本締めで閉会した。

◇

総会に先立つ講演で京都

大学の浅利美鈴助教は、「ご

み」から見た「暮らし(人)

」を根本から見直し、京都市

京都大学、世界の「ごみ

」の実態を踏まえ、ソロモン

諸島のペットボトルやプラ

スチック類が大量に発生し

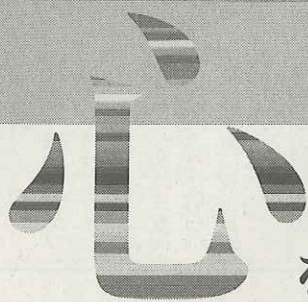
ていることを指摘し、今後

の対策が必要であると投げ

掛け、官民共同による、ご

みの分別収集システム構築

の支援を挙げた。



を伝える

コミュニケーションには、
いつでも紙があります。

人と紙の未来を見つめて



日本紙パルプ商事

www.kamipa.co.jp